

コラム5 アークテック株式会社

サプライチェーンの安定を求めて ～理想的な国際資材調達の世界裏～

栃木県下都賀郡のアークテック株式会社（従業員 33 名、資本金 1,000 万円（2024 年 2 月時点））は、半導体・医療・物流・航空機分野等の高品質な精密板金製品の製造を行っている。1963 年に創業してから、1997 年には板金業界で初めて ISO9001 認証を取得し、2021 年には「とちぎ SDGs 推進企業」に選ばれるなど、優れた技術を有する精密板金加工企業である。

また、同社は 2003 年にフィリピンにて 100%出資の子会社である「ARKTECH PHILIPPINES, INC.」を設立した。海外調達特有の「コストは安い品質、納期、顧客対応に不満が残る」といった生産体制ではなく、日本本社同様の設備や日本人スタッフの常駐、日本本社へのフィリピン子会社スタッフの研修を通して、日本と同品質の生産体制を確保している。

コラム第 5-1 図 フィリピン工場の社屋、製造の様子、タレットパンチプレス



資料：アークテック株式会社撮影。

板金加工は、主にステンレスやアルミなどの板金材料をもとに行われる。新型コロナウイルス感染症拡大以前は、同社の材料調達において、価格面で他国よりもコストが低く、品質についても一定水準にある中国製の板金材料の割合が一定程度あった。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、中国からの調達が不安定になったことや、日中関係が悪化したことをきっかけに、中国に依存していた板金材料の調達先を分散させるため、サプライチェーン改善の取組をスタートした。

代替調達先の模索に際しては、日本国内を中心に、英国やヨーロッパなど、これまでも付き合いのあった既存の調達先からの仕入を増やしたことで、新規調達先の獲得におけるコストや新規取引に際しての事務的な作業負担は少なかった。また、付き合いの長い調達先ということもあり、想定よりもサプライチェーン多元化に伴うコストも抑えることができた。

なお、代替調達先からは、初めて発注する板金材料もあったため、一定の調整は必要であったが、既存取引の延長で調整が可能な範囲であり、大きな課題にはならなかった。

同社がサプライチェーン改善の取組を行った当時は、新型コロナウイルス感染症拡大により、物流が滞っていることが、業界内だけでなく、日々のニュースでも報道されていた。調達先を特定の国に依存することのリスクについては周知の事実であったといえるが、同社のようにサプライチェーン上の問題やリスクに気付き、実際に行動を起こすことができた企業は少ないだろう。

ARKTECH PHILIPPINES,INC.の荒川副社長は「企業の利益を守るため、コスト削減対策の一環として、中国からの輸入は取り得る手段の一つであるが、依存度が高くなるのは好ましくない。納期遅れや品質の担保ができないといった具体的なリスクが生じることで、初めてサプライチェーン多元化によるリスク分散の必要性に気付けることが多いのではないか。」と語った。